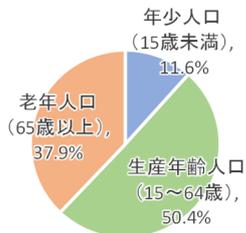


七 釜 (しちかま)

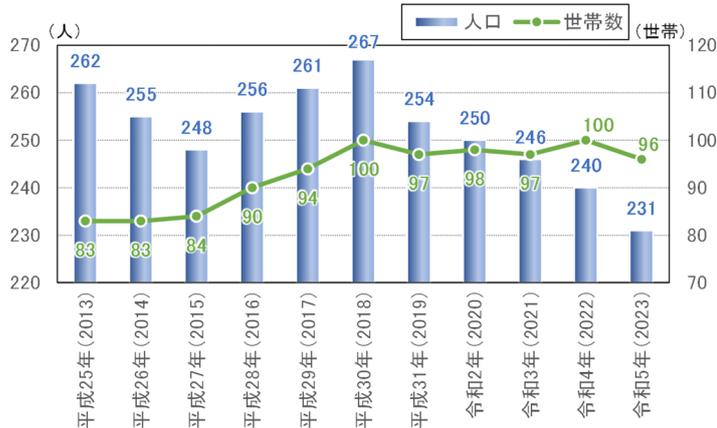
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	231人
世帯数	96世帯
高齢化率	37.9%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落の南北に山が迫り、東側の段川に沿った深い谷の入口に家屋が密集する。川沿いと集落の西側から南側に田畑が開け、集落の背後は湿地である。

地名由来 古代、七釜の辺りまで海が入り込み、塩を炊いた釜が七個（七は吉数）あったという説、付近に点々と古墳があり、その墳墓が釜のように見えたためという説、湿原・湿田が多いことから「シツ」から転じたという説などがある（「たじま地名考」日本海新聞）。

歴史等 南側の新市にかけての尾根には戦国末期の高巻城（七釜城）跡があり、田公氏が居城した。南溟禅師開祖の田井楞厳寺の末寺、玉田寺がある。

近世の七釜村は、豊臣政権下では太閤蔵入地（豊臣氏の直轄地）で、江戸時代には、慶長10年（1605）因幡国若狭藩領、元和3年（1617）幕府領、寛永4年（1627）旗本宮城氏知行、正保元年（1645）幕府領、寛文8年（1668）豊岡藩領、享保12年（1727）からは幕府領となった。家数は、宝暦10年（1760）72、嘉永元年（1848）72。天保5年（1834）の『但馬国郷帳』（天保郷帳）の村高は433石余。

明治22年（1889）大庭村の大字となり、昭和29年（1954）からは浜坂町の大字となる。明治24年（1891）の戸数65、人口は男142・女144。昭和37年（1962）に温泉が湧出し、浜坂七釜温泉病院や民宿などが建設されていった。

これまで把握している文化財

文化財の件数 48件 (うち指定等文化財 4件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等
有形文化財	建造物	建築物	0	0
		石造物	1	1
		工作物・その他の構築物	0	0
	美術工芸品	彫刻	4	0
		絵画	0	0
		工芸品	2	0
		書跡・典籍	1	1
無形文化財	古文書・歴史資料・考古資料	1	0	
	音楽	2	0	
	演劇	0	0	
	工芸技術	0	0	
	その他の無形文化財	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	信仰の場	3	0
		祭具	0	0
		民具	0	0
	無形の民俗文化財	その他の有形の民俗文化財	0	0
		年中行事・民俗芸能	4	1
		民俗技術	0	0
		食文化	0	0
記念物	遺跡	民間説話・俗信	0	0
		その他の無形の民俗文化財	0	0
		散布地・集落跡・生産遺跡	0	0
		古墳・その他の墓	22	0
		城館跡・寺社跡	2	0
	名勝地	街道・古道等	0	0
		戦争遺跡	0	0
		その他の遺跡	0	0
	動物・植物・地質鉱物	山岳・高原・丘陵	0	0
		海岸・海浜・島嶼	0	0
		河川・滝・渓谷・湖沼	0	0
公園・庭園		1	0	
文化的景観	動物	0	0	
	植物	3	1	
伝統的建造物群	地質鉱物	1	0	
	生活・生業・風土により形成された景観地	1	0	
宿場町・城下町・農漁村等			0	0



石造宝篋印塔



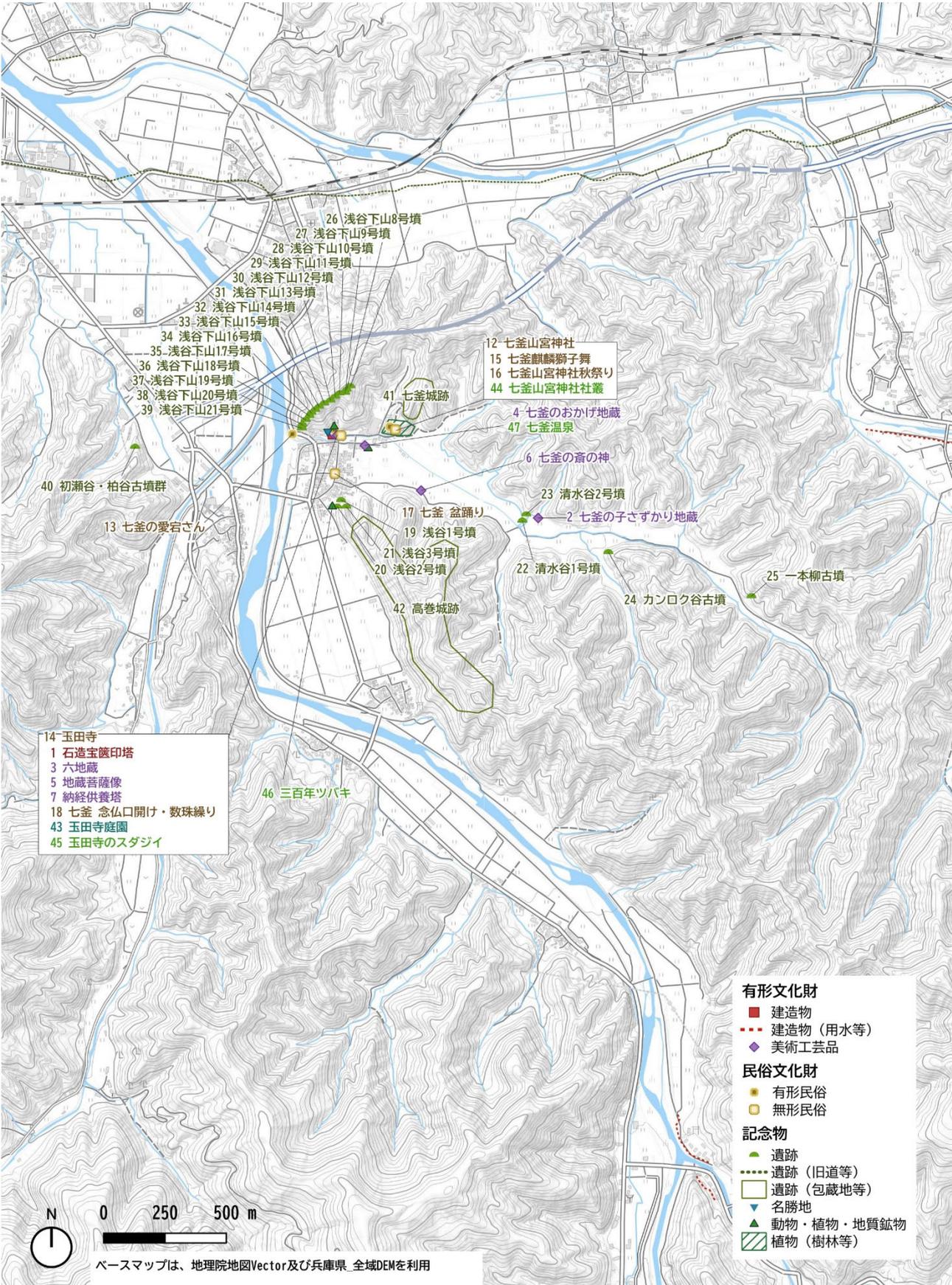
七釜麒麟獅子舞



玉田寺庭園

※人口・世帯数は住民基本台帳（令和5年4月現在）による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

2-08 七釜

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
石造物	1	石造宝篋印塔	もとは大阪府の能勢にあったものを新温泉町栃谷出身の古美術研究家細見良氏が玉田寺に寄進したものである。塔の基壇石に正和3年(1314)の銘があり、宝篋印塔が建てられ始めた鎌倉後期の様相をよく現わしている。兵庫県下では、最も古い年号を持つ宝篋印塔である。 県指定重要有形文化財

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	2	七釜の子さずかり地蔵 (1822年建立)	七釜の肯州和尚は、養子に迎えた子が病死したことにより、衆生の幸福を願い地蔵菩薩の建立を志した。しかし、病に罹り、その夢はかなえられなかった。その和尚の心情を察した大地主でもある丸毛家の主人によって、文政5年(1822)7月に地蔵尊が建立された。その後、この地の温泉宿に泊まった女性が、子どもを授かるように願うと、しばらくして子を授かったことから、「子さずかり地蔵」と呼ばれるようになったと伝わる。
	3	玉田寺の六地蔵(1826建立)	段川を渡り、玉田寺に向かう石段の先に、石板に彫る形で安置されている。文政9年(1826)建立。
	4	七釜のおかげ地蔵	この場所に昔住まいがあり、そこに幽霊が出たので、地蔵を建てて鎮めたと云われている。
	5	玉田寺本尊の延命地蔵菩薩像	室町から江戸時代のものと思われる。安阿弥ノ作
工芸品	6	七釜の斎の神	旅人が古い草鞋を脱いで木に吊り下げ、無事に旅が続けられるように願ったといわれる。
	7	玉田寺の納経供養塔 (1875年建立)	安山岩の自然石型。高さ170cm。明治8年(1875)建立。主碑銘は「護法資治塔」。寺運の興隆を願って大乘妙典600巻を書写して納経した塔で、主題は天竜寺の初代管長滴水禅師の書である。
書跡・典籍	8	白隠慧鶴墨蹟	玉田寺所蔵。白隠慧鶴(貞享2年(1685)~明和5年(1768))は、駿河(静岡県)に生まれ、15歳で出家し、後に正宗国師の号を賜り、禅に新風を吹き込み臨済宗の中興の祖となった。別名白隠禅師とも呼ばれ、書画に秀いでた僧でもある。禅師の個性的な作風がうかがわれる貴重な作品で、江戸時代中期の作と思われる。 町指定文化財
古文書・歴史資料・考古資料	9	玉田寺文書	玉田寺過去帳、七釜村関係文書。

■ 無形文化財

分類	番号	名称	概要
音楽	10	七釜の嫁入り唄 (婿家に入る時の唄)	※『但馬二方の民間芸能』(昭和56年、大森恵子著、但馬民俗芸能研究会・浜坂町教育委員会発行) p150 参照
	11	仕事唄(田白唄)	※『但馬二方の民間芸能』(昭和56年、大森恵子著、但馬民俗芸能研究会・浜坂町教育委員会発行) p152 参照

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	12	七釜山宮神社	祭神は伊弉那岐命、伊弉那美命、大山祇命、誉田別尊、素戔鳴尊。当村開拓の祖神を祀る神社であり、文安元年（1444）に社殿を再建して山神権現と称した。明治初年（1868）に山宮神社と改称し、同6年（1873）3月（10月か）に村社に列せられる。大正元年（1912）に八幡神社、袍衣神社を合祀する。
	13	七釜の愛宕さん	七釜から二日市に向かう道路の屈曲部の高台の上に位置した。「愛宕神社」と刻まれた石碑が建てられている。火除けの守り神。七谷木谷（現在の七釜温泉病院の裏）に位置する。
	14	玉田寺	応永13年（1406）に南溟禪師が開いたとされる。もとは田井楞嚴寺にあった退耕庵を慶安年間（1648～1651）に、七釜丸毛家から出た貞山和尚が現在の場所に「退耕山玉田寺」と改めて再建したと伝わる。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	15	七釜麒麟獅子舞	9月29日の山宮大明神祭礼で奉納される。神社境内、玉田寺、村各子で舞われる。狸々の舞と獅子を追い込む舞がある。 国指定重要無形民俗文化財（「因幡・但馬の麒麟獅子舞」として）
	16	七釜山宮神社秋祭り	9月29日に山宮神社で行われる。麒麟獅子舞が奉納される。
	17	七釜 盆踊り	8月14日に行われる。8月初めから、七釜盆踊り保存会を中心に音頭・太鼓の練習を始める。
	18	七釜 念仏口開け・数珠繰り	1月16日に行われる。12～13人が輪になって鐘の音に合わせて、「ナムンダー」と唱えながら数珠をまわす。七釜すこやかクラブ会員を中心に継承されている。

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
古墳・ その他の墓	19	浅谷1号墳	古墳時代の古墳。円墳、径9m。
	20	浅谷2号墳	古墳時代の古墳。円墳、径6m。
	21	浅谷3号墳	古墳時代の古墳。円墳、径6m。
	19	清水谷1号墳	古墳時代の古墳。円墳、径9m。
	23	清水谷2号墳	古墳時代の古墳。円墳、径7m。横穴式石室。
	24	カンロク谷古墳	古墳時代の古墳。横穴式石室の一部が露出。
	25	一本柳古墳	古墳時代の古墳。6.3m×1.4mの横穴式石室が露出。林道建設中に須恵器片が出土。
	26	浅谷下山8号墳	古墳時代の古墳。方形、3m×12m。
	27	浅谷下山9号墳	古墳時代の古墳。方形、23m×6m。
	28	浅谷下山10号墳	古墳時代の古墳。方形、8m×6m。
	29	浅谷下山11号墳	古墳時代の古墳。円墳、径6m。
	30	浅谷下山12号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺10m。
	31	浅谷下山13号墳	古墳時代の古墳。円墳、径8m。
	32	浅谷下山14号墳	古墳時代の古墳。円墳、径7m。
	33	浅谷下山15号墳	古墳時代の古墳。円墳、径7m。
	34	浅谷下山16号墳	古墳時代の古墳。円墳、径6m。
	35	浅谷下山17号墳	古墳時代の古墳。円墳、径7m。

2-08 七釜

分類	番号	名称	概要
古墳・ その他の墓	36	浅谷下山 18 号墳	古墳時代の古墳。円墳、径 7m。
	37	浅谷下山 19 号墳	古墳時代の古墳。円墳、径 7m。
	38	浅谷下山 20 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 10m。
	39	浅谷下山 21 号墳	古墳時代の古墳。円墳、径 8m。
	40	初瀬谷・柏谷古墳群	弥生時代後期後葉、弥生時代終末期～古墳時代初頭、古墳時代後期の墳墓・古墳 6 基と、それに伴う埋葬施設 22 基を調査した。弥生土器・須恵器・土師器、青銅鏡、鉄製品、玉類などの遺物が出土した。浜坂道路の建設で消滅。
城館跡・ 寺社跡	41	七釜城跡	中世の城館跡。郭が残る。堀切背後の土橋・豎堀や堀切前面の土塁などの配置から、堀切の南側に主郭が位置したと推察される。また、山宮神社の鎮座する平坦面やその南側の平坦面も城郭の曲輪の一部と考えられる。『但馬国にしかた日記』（弘治 3 年（1557））には、七釜村に「丸毛与三左衛門殿」「丸毛入道殿」などの一族が居住しており、城主は丸毛氏であったとも考えられる。
	42	高巻城跡	中世の城館跡。堀切・郭等が顕著に残る。二方郡の有力国人で、代々但馬守護山名氏の直臣として徴用されていた田公氏を城主とする。縄張りから、南北朝期から室町期に造られた城を戦国期に大改修したことがうかがえる。拠点城郭であり、『吉川家文書』にいう天正 7 年（1579）段階の「垣屋豊統の要害」の一つと思われる。

■ 記念物／名勝地

分類	番号	名称	概要
公園・庭園	43	玉田寺庭園	玉田寺本堂の裏に、江戸時代中頃に造られた築山式枯山水庭園がある。庭は、前方の平坦部、中段の築山部、奥の平坦部の三段からなり、変化のある地相を利用した作庭で、特に奥行きが深くとられているため、遠近感があり、ゆったりとした空間をつくっている。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	44	七釜山宮神社社叢	七釜山宮神社周辺には、幹回り 2～3m のスダジイやヒノキの古木をはじめ、ヤブツバキ・サカキなどの常緑樹が生い茂っている。 町指定文化財
	45	玉田寺のスダジイ	玉田寺の境内にある幹回り 3.4m のスダジイ。
	46	三百年ツバキ	樹齢 300 年とも言われているヤブツバキ。毎年春には赤い花をつける。
地質鉱物	47	七釜温泉	北但層群中の Na・Ca-SO ₄ 泉。兵庫県レッドリスト（地質）では要注目（温泉・湧水などのように地質以外の分野の自然現象のうち、地質との関連性があり重要とみなされるもの）に位置付けられている。

■ 文化的景観

分類	番号	名称	概要
生活・生業・ 風土により 形成された 景観地	48	七釜地区の景観	『但馬ランドスケープ広域計画報告書』では主要な温泉町の一つとしてあげられている。

